

# 横浜市感染症発生動向調査事業概要

令和6年(2024年)

令和8年2月

横浜市医療局健康安全部健康安全課  
横浜市医療局衛生研究所

# はじめに

感染症発生動向調査事業は、感染症の発生状況に関する情報を迅速に収集し、解析・評価を加え、その結果を速やかに関係者や市民に還元することによって、感染症対策に資することを目的としています。

横浜市では、1978年に、本市独自の感染症サーベイランス事業を開始しました。その後、1981年に全国レベルで国の事業として開始され、1999年の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下、感染症法)の施行に伴い、感染症発生動向調査が法の下に位置付けられました。以降も感染症法の改正が実施され、感染症の分類や届出対象疾患などが追加・変更されています。

2024年は、デング熱と百日咳が世界的に流行しました。

世界全体のデング熱の患者数は、過去最多だった2023年を大きく上回り、2024年は1,400万人を超えました。日本では、海外で罹患した症例の多くがアジア地域(インドネシア、フィリピン、インドなど)で報告されました。

百日咳は、特に中国で大きな流行が発生し、検出された菌株の薬剤耐性率が高かったと報告されています。日本では、5月頃から増加がみられ、9月以降は更に報告数が増加しました。その他、国内では劇症型溶血性レンサ球菌感染症が調査を開始して以来最多の報告数となり、マイコプラズマ肺炎は2016年以来の大きな流行となりました。また、手足口病は夏季の流行の後、秋季に再び流行し、全国的に感染者数が増加しました。

横浜市でも、全国と同様に百日咳が流行しました。2021年から2023年は毎年10件以下の報告数でしたが、2024年は約100件の報告があり、特に7月以降に報告が集中しました。また、梅毒の流行が長期間継続しており、2021年から4年連続で年間最多報告数を更新しています。その他、劇症型溶血性レンサ球菌感染症が横浜市内でも調査開始以来の最多報告数を記録し、手足口病も全国同様に夏季から秋季にかけて流行するなど、感染症法の五類に分類されている疾患の動向が注目されました。

この度、2024年(1月～12月)の情報をまとめ、『横浜市感染症発生動向調査事業概要』を作成しました。感染症対策の参考資料として御活用いただければ幸いです。

最後に、本事業の推進にあたり御協力いただいた一般社団法人横浜市医師会、定点医療機関をはじめ各機関の皆様、また本事業概要の発行に御尽力いただいた感染症発生動向調査委員会の先生方、横浜市医療局職員の方々に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

2026年2月

横浜市感染症発生動向調査委員会

委員長 吉村 幸浩

## 感染症発生動向調査委員会委員名簿

職名	氏名	所属
委員長	吉村幸浩	横浜市立市民病院 感染症内科長
副委員長	満田年宏	東京女子医科大学 総合感染症・感染制御部 感染制御科 教授
委員	北村勝彦	公立大学法人 横浜市立大学客員教授
委員	相原雄幸	相原アレルギー科・小児科クリニック 院長
委員	荒瀬透	神奈川県警友会けいゆう病院 産婦人科部長
委員	大久保一郎	横浜市衛生研究所長
委員	船山和志	金沢区福祉保健センター長

～2024年3月

職名	氏名	所属
委員長	吉村幸浩	横浜市立市民病院 感染症内科長
副委員長	満田年宏	元 東京女子医科大学 総合感染症・感染制御部 感染制御科 教授
委員	北村勝彦	公立大学法人 横浜市立大学客員教授
委員	相原雄幸	相原アレルギー科・小児科クリニック 院長
委員	荒瀬透	神奈川県警友会けいゆう病院 産婦人科部長
委員	大久保一郎	横浜市衛生研究所長
委員	船山和志	金沢区福祉保健センター長

2024年4月～

# 目 次

## 第1章 横浜市感染症発生動向調査事業の概要

1. 横浜市感染症発生動向調査事業	1
(1) 感染症対策の法的根拠	1
(2) 感染症発生動向調査	1
(3) 横浜市感染症発生動向調査システムの概要	1
(4) 横浜市病原体調査	2
(5) 横浜市感染症発生動向調査システムの目的	2
(6) NESID (National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease) について	2
2. 感染症発生動向調査における情報の流れ	4
3. 感染症の種類	5
4. 感染症法で規定されている感染症	7
5. 区別定点医療機関数	10

## 第2章 全数把握対象の報告状況

1. 一類感染症	11
2. 二類感染症	11
3. 三類感染症	12
4. 四類感染症	13
5. 五類感染症(全数把握対象)	14
(表) 年別患者報告数(全数把握対象の感染症)	19
(表) 2024年に報告された全数把握対象の感染症	21

## 第3章 定点把握対象(全数把握対象を除く五類感染症)の報告状況

1. インフルエンザ/COVID-19 定点把握対象感染症	27
(1) インフルエンザ	27
(2) 新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)であるものに限る。)	28
2. 小児科定点把握対象感染症	29
(1) RSウイルス感染症	29
(2) 咽頭結膜熱	30
(3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	31

(4) 感染性胃腸炎 .....	32
(5) 水痘 .....	33
(6) 手足口病 .....	34
(7) 伝染性紅斑 .....	35
(8) 突発性発しん .....	36
(9) ヘルパンギーナ .....	37
(10) 流行性耳下腺炎 .....	38
3. 眼科定点把握対象感染症 .....	39
(1) 急性出血性結膜炎 .....	39
(2) 流行性角結膜炎 .....	40
4. 性感染症定点把握対象感染症 .....	41
(1) 性器クラミジア感染症 .....	41
(2) 性器ヘルペスウイルス感染症 .....	42
(3) 尖圭コンジローマ .....	42
(4) 淋菌感染症 .....	43
5. 基幹病院定点把握対象感染症 .....	44
(1) 細菌性髄膜炎 .....	44
(2) 無菌性髄膜炎 .....	44
(3) マイコプラズマ肺炎 .....	44
(4) クラミジア肺炎 .....	45
(5) 感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る) .....	45
(6) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 .....	46
(7) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 .....	46
(8) 薬剤耐性緑膿菌感染症 .....	47
6. 入院サーベイランス .....	47
(1) インフルエンザ .....	47
(2) 新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)であるものに限る。) .....	48
7. 法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症 .....	48
8. 定点医療機関からの報告状況 .....	49
(表) 定点把握対象の感染症 患者報告数 .....	50

#### 第 4 章 病原体情報

1. ウイルス検査 .....	62
(1) 病原体定点調査成績について .....	62
2. 細菌検査 .....	65

## 第5章 資料

1. 横浜市感染症発生動向調査事業定点一覧 .....	70
2. 横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱 .....	76
3. 横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱 .....	88
4. 横浜市感染症発生動向調査委員会報告 .....	90
5. 感染症に気をつけよう .....	114

### 横浜市衛生研究所ウェブページ

URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/>

### 横浜メディカルダッシュボード(感染症)

<https://iryo-dashboard.city.yokohama.lg.jp/infectious/>